

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-191916

(43)公開日 平成9年(1997)7月29日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>

A 4 5 C 11/00

識別記号

片内整理番号

F I

A 4 5 C 11/00

技術表示箇所

E

Z

審査請求 未請求 請求項の数5 書面 (全 5 頁)

(21)出願番号 特願平8-75081

(22)出願日 平成8年(1996)1月17日

(71)出願人 596043014

古川 滋

愛知県名古屋市守山区大字大森字八龍2367  
番地445

(71)出願人 596043025

古川 充祐

愛知県名古屋市守山区大字大森字八龍2367  
番地445

(72)発明者 古川 滋

愛知県名古屋市守山区大字大森字八龍2367  
番地445

(72)発明者 古川 充祐

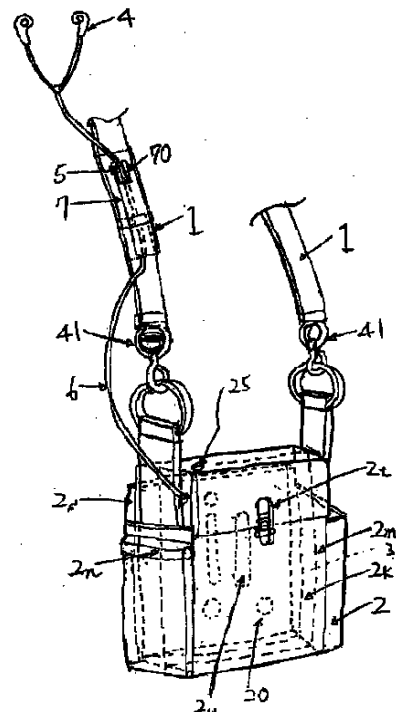
愛知県名古屋市守山区大字大森字八龍2367  
番地445

(54)【発明の名称】 携帯用バック及び携帯音響電子機器用保持具

(57)【要約】

【課題】パスポート、小型テープレコーダ等の携帯音響電子機器を携帯するのに有利な携帯用バックを提供すること。

【解決手段】身体に保持される締結ベルト1と、締結ベルト1に結合された貴重品及び携帯音響電子機器の少なくとも一方を収容する収容バック2とを具備している。イヤホン4と携帯音響電子機器3とを結ぶ信号コード線6を締結ベルト1に沿わせて保持する信号線保持部を備えている。



**【特許請求の範囲】**

【請求項1】身体に保持される締結ベルトと、締結ベルトに結合され、貴重品及び携帯音響電子機器の少なくとも一方を収容する収容バックとを具備していることを特徴とする携帯用バック。

【請求項2】身体に保持される締結ベルトと、締結ベルトに結合され、コード式またはコードレス式の操作部を備えた小型テープレコーダ等の携帯音響電子機器を収容する収容バックとを具備している携帯用バックであって、締結ベルトは、操作部を被覆して保持する被覆カバー部を備えていることを特徴とする携帯用バック。

【請求項3】被覆カバー部は、面形態で密着する面ファスナーであることを特徴とする請求項2に記載の携帯用バック。

【請求項4】身体に保持される締結ベルトと、締結ベルトに結合され、イヤホンとを備えた携帯音響電子機器を収容する収容バックとを具備している携帯用バックであって、イヤホンと携帯音響電子機器とを結ぶ信号コード線を締結ベルトに沿わせて保持する信号線保持部を備えていることを特徴とする携帯用バック。

【請求項5】スイッチ類をもつ操作部と信号コード線とを備えた携帯音響電子機器に用いられるものであって、操作部及びコード線の少なくとも一方を身体または携帯品に保持する保持部を備えていることを特徴とする携帯音響電子機器用保持具。

**【発明の詳細な説明】****【0001】**

【発明の属する技術分野】本発明は身体等に携帯する携帯用バック、携帯音響電子機器用保持具に関する。本発明はパスポート等の貴重品や携帯音響電子機器の携帯に利用できる。

**【0002】**

【従来の技術】パスポート等の貴重品を携帯する際には、その紛失に注意する必要がある。また小型テープレコーダ等の携帯音響電子機器を携帯するには、衣服のポケット等に入れる必要があり、ポケットの損傷を招き易い。

**【0003】**

【発明が解決しようとする課題】本発明は上記した実情に鑑みなされたものであり、請求項1から請求項4は、パスポート、小型テープレコーダ等の携帯音響電子機器を携帯するのに有利な携帯用バックを提供することを課題とする。請求項5は、小型テープレコーダ等の携帯音響電子機器の操作部や信号コード線を保持するのに有利な携帯音響電子機器用保持具を提供することを課題とする。

**【0004】**

【課題を解決するための手段】請求項1に係る携帯用バ

ックは、身体に保持される締結ベルトと、締結ベルトに結合され、貴重品及び携帯音響電子機器の少なくとも一方を収容する収容バックとを具備していることを特徴とするものである。請求項2に係る携帯用バックは、身体に保持される締結ベルトと、締結ベルトに結合され、コード式またはコードレス式の操作部を備えた小型テープレコーダ等の携帯音響電子機器を収容する収容バックとを具備している携帯用バックであって、締結ベルトは、操作部を被覆して保持する被覆カバー部を備えていることを特徴とするものである。

【0005】請求項3に係る携帯用バックは、請求項2において、被覆カバー部は、面形態で密着する面ファスナーであることを特徴とするものである。請求項4に係る携帯用バックは、身体に保持される締結ベルトと、締結ベルトに結合され、イヤホンとを備えた携帯音響電子機器を収容する収容バックとを具備している携帯用バックであって、イヤホンと携帯音響電子機器とを結ぶ信号コード線を締結ベルトに沿わせて保持する信号線保持部を備えていることを特徴とするものである。

【0006】請求項5に係る携帯音響電子機器用保持具は、スイッチ類をもつ操作部と信号コード線とを備えた携帯音響電子機器に用いられるものであって、操作部及びコード線の少なくとも一方を身体または携帯品に保持する保持部を備えていることを特徴とするものである。

【0007】この保持具は、携帯音響電子機器の操作部を保持する操作部保持具であっても、携帯音響電子機器の信号コード線の少なくとも一部を保持するコード線保持具であっても良い。また操作部及びコード線の双方を保持するものでも良い。この保持具は、身体の衣服や携帯品の一部を挟持するクリップ構造にしても良いし、永久磁石に吸引力を利用して身体の衣服や携帯品の一部に吸着する構造でも良い。

**【0008】**

【実施の形態】本発明の形態としては、例えば、図1に示す形態と、図2に示す形態とがある。図1に示す形態では、この携帯用バックは、図1に示す様に、身体に保持されるエンドレス状の締結ベルト1と、締結ベルト1に結合され収容室2aをもつ収容バック2とを備えている。締結ベルト1の空間1aは身体の肩を通す空間である。図1に示す形態では、締結ベルト1は身体の肩にXの字形状に掛けられる。従って、収容バック2を泥棒がひったくろうとしても、身体から収容バック2が分離することは防止される。従ってパスポート等の貴重品を収容バック2に収容して携帯するのに適し、海外旅行に適する。

【0009】図2に示す形態では、締結ベルト1は身体の胴の回りに保持される腰ベルト状のベルト部10と、身体の肩に掛けられるショルダ式のベルト部11とで構成されている。図2に示す形態によれば、ベルト部10は身体の胴の回りに腰ベルト状に締結保持されるので、

収容バック2を泥棒がひったくろうとしても、身体から収容バック2が分離することは防止される。収容バック2のひったくり盗難を防止するのに有利である。従ってパスポート等の貴重品の携帯に適し、海外旅行に適する。

【0010】収容バック2は、携帯音響電子機器などを収容する室と、パスポート等の貴重品を収容する室をもつ。携帯音響電子機器3としては、ウォークマンとも呼ばれる携帯小型テープレコーダ、携帯小型ラジオ、携帯ポータブルCD等があり、一般的には携帯音響電子機器3の作動を操作するコード式の操作部5を備えている。

【0011】図3に示す操作部5は、携帯音響電子機器3の作動を制御するスイッチ類を備えた操作部である。図3に示す様に締結ベルト1には、携帯音響電子機器3の操作部5を挟む様に被覆して保持する被覆カバー部7が保持されている。被覆カバー部7は、締結ベルト1に固定されている方式でも、締結ベルト1に対して着脱可能な方式でも良い。図3に示す様に被覆カバー部7の内面部には、面形態で密着する面ファスナー7i（マジックバックとも呼ばれる）が設けられている。面ファスナー7iを設ければ、携帯音響電子機器3の操作部5や信号コード線6の着脱性が容易となる。被覆カバー部7は、操作部5のスイッチ類を露出させて操作性向上を図るための窓開口70を備えている。

【0012】イヤホン4と携帯音響電子機器3とは信号コード線6で結ばれている。信号コード線6を締結ベルト1の長さに沿わせて保持する信号線保持部は、被覆カバー部7で兼用されている。この様に信号コード線6を締結ベルト1の長さ方向に沿わせれば、信号コード線6の無用な垂下を防止でき、携帯音響電子機器3の使用の際に信号コード線6が大きく垂下して邪魔になることを抑制できる。故に使用者がサイリングしているとき、ジョギングしている時でも、携帯音響電子機器3を使用するのに有利となる。

【0013】この被覆カバー部7としては、図4に示す様に、互いに接合して信号コード線6を挟む第1面ファスナー71と第2面ファスナー72とで構成することもできる。第1面ファスナー71と第2面ファスナー72とを手作業で互いに離せば、信号コード線6の取り外しは容易である。更に図5に示す様に信号コード線6を通す孔7xを備えた被覆カバー部7を締結ベルト1に沿わせた状態で締結ベルト1に着脱可能に取り付ける構造にしても良い。図5に示す被覆カバー部7の内面部にも面ファスナーを設けることが好ましい。

【0014】また図8に示す様に、締結ベルト1に波形状の円弧を備えた切溝1rを形成して適数個の起こし片15を、信号線保持部として形成しても良い。この場合には信号コード線6の垂下を防止するために、起こし片15で信号コード線6で挟み、これにより信号コード線

6を締結ベルト1に保持し、以て信号コード線6を締結ベルト1の長さ方向に沿わせることにしても良い。なお15pは信号コード線6が通る穴である。

【0015】また図6に示す形態によれば、前述の様に身体に取り付けられる締結ベルト1に、パスポートやサイフ等の貴重品を収容する収容バック2を結合することになっている。締結ベルト1には、締結ベルト1を交換するための取替え用金具41が設けられている。収容バック2の裏側には空気穴20が設けられている。空気穴20は、汗抜き等に有利である。2mは収容バック1の蓋をする止め金具、2nは携帯音響電子機器3等を収容する室、2kは携帯電話等を収容する室、2pは収容ポケット、2sは地図入れポケット、2uは収容バック2の横ずれ防止部を示す。

【0016】図6に示す形態とすれば、パスポートやサイフ等の貴重品を収容する収容バック2が設けられているので、海外旅行に適する。図6に示す形態においても、締結ベルト1には、携帯音響電子機器3のスイッチ類をもつ操作部5は、被覆カバー部7で被覆されている。更に操作部5のスイッチ類は被覆カバー部7の窓開口70から露出している。これによりスイッチ類の操作性が向上する。更に被覆カバー部7は信号コード線6を保持しており、信号コード線6を締結ベルト1に沿わせて保持する信号線保持部をも兼用している。

【0017】更に図6に示す様に収容バック2にはコードレス式のアンテナ孔25を形成しても良い。この場合には、図7に示す様に、アンテナ孔25からの電波を受信するためのアンテナ部4iを備えたコードレス式のイヤホン4を装備する。

（他の例）前述の様に携帯音響電子機器3は、スイッチ類をもつ操作部5と、信号コード線6とを備えている。図9（A）（B）に示す操作部保持具8は、携帯音響電子機器3の操作部5を使用者の身体または携帯品（例えば衣服、使用者が被る帽子のひさし、使用者が携帯するリュックやナップサックや鞆等）に保持するものである。この操作部保持具8を身体や携帯品に装備すれば、操作部5の無用な垂下は防止され、歩行等に便利である。

【0018】この操作部保持具8は、クリップ形状のものであり、具体的には、軸80を回動支点として矢印A1方向に回動可能に設けられ身体や衣服や携帯品の一部を挟持する挟持部81を備えた回動腕82と、挟持部81を挟持方向に付勢するバネ等の図略の付勢部と、挟持部81と反対側に位置し回動腕82を使用者の指先で開放操作するための摘み83と、回動腕82に設けられた保持部84とを備えている。

【0019】この保持部84は、携帯音響電子機器3の操作部5を挟持して操作部5を脱落せぬ様に保持するものである。この保持部84は、樹脂製でもゴム製でも金属製でも良く、材料は問わない。保持部84は摩擦係数

を高める材質、構造にできる。保持部84は、操作部5を脱着可能に保持する形態でも、操作部5に一体的に装備されている形態でも良い。脱着可能に保持する形態の場合には、図9(B)の矢印C1方向に操作部5を相対的にスライドすることにより、脱着する形態にできる。

【0020】また図10(A)(B)は他の形態を示す。図10に示す操作部保持具8は、携帯音響電子機器3の操作部5を身体または携帯品(例えば衣服の一部、帽子のひさし、リュックやナップサックや鞆等)に保持するものである。この操作部保持具8の保持部84は、操作部5をこれの長さ方向にクランプつまり挟持して保持する形態である。この保持具には信号コード線6を通す通孔6kが形成されている。

【0021】図11(A)(B)(C)は、携帯音響電子機器3の信号コード線6を身体を着衣の一部(例えば衣服の一部、バンドの一部、帽子のひさし、リュックやナップサックや鞆等)に保持するコード線保持具9の各例を示す。このコード線保持具9を身体や携帯品に装備すれば、信号コード線6の無用な垂下は防止され、歩行等に便利である。

【0022】図11(A)に示す例では、コード線保持具9と信号コード線6とが一体的に固定されている。図11(B)に示す例では、コード線保持具9は、クリップ形状のものであり、具体的には、軸80を回動支点として矢印A3方向に回動可能に設けられ身体や衣服や携帯品を挟持する挟持部81を備えた回動腕82と、挟持部81と反対側に位置し回動腕82を指先で開放操作するための摘み83とを備えている。このコード線保持具9には信号コード線6を通す通孔6kが形成されている。

【0023】図11(C)に示す例では、コード線保持具9は、身体や衣服や携帯品に取り付けられるホック91と、信号コード線6を通す通孔6kを備えた閉鎖リング92と、閉鎖リング92とホック91とをつなぐ撚み体93(例えば紐やチェーン)とで構成されている。閉鎖リング92は矢印E1方向に開放操作可能とされており、開放操作により信号コード線6を保持できる。

【0024】その他、本発明は上記した実施例のみに限定されるのではなく、要旨を逸脱しない範囲内で必要に応じて適宜選択できることは勿論である。

(付記)上記した実施例から次の技術的思想も把握できる。

○被覆カバー部は、締結ベルトに対して着脱可能である

ことを特徴とする各請求項に記載の携帯用バック。

○締結ベルトは、身体の胴回りに締結されるベルト部分と、身体や肩に掛けられるベルト部分とで構成されていることを特徴とする各請求項に記載の携帯用バック。この場合には、収容バックが身体から分離することを防止するのに有利である。

○締結ベルトは、身体や肩にXの字形状に掛けられるベルト部分で構成されていることを特徴とする各請求項に記載の携帯用バック。この場合には、収容バックが身体から分離することを防止するのに有利である。

○締結ベルトは、信号線が垂下しない様に信号線を挟んで保持する起こし片を備えていることを特徴とする各請求項に記載の携帯用バック。

【0025】○スイッチ類をもつ操作部と信号コード線とを備えた携帯音響電子機器と、携帯音響電子機器の操作部及びコード線の少なくとも一方を身体または携帯品に保持する携帯音響電子機器用保持具とを備えていることを特徴とする携帯音響電子機器装置。

【0026】

【発明の効果】本発明に係る携帯バックによれば、パスポート、小型テープレコーダ等の携帯音響電子機器を携帯するのに有利である。本発明に係る携帯音響電子機器用保持具によれば、操作部や信号コード線の保持に有利である。

【図面の簡単な説明】

【図1】携帯用バックの一例を示す斜視図である。

【図2】携帯用バックの他例を示す斜視図である。

【図3】操作部及び信号コード線の保持構造の一例を示す部分斜視図である。

【図4】信号コード線の保持構造の他例を示す部分斜視図である。

【図5】信号コード線の保持構造の他例を示す部分斜視図である。

【図6】携帯用バックの一例を示す斜視図である。

【図7】イヤホンの一例を示す斜視図である。

【図8】信号コード線を保持する構成図である。

【図9】操作部保持具の構成図である。

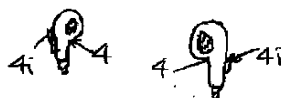
【図10】他の操作部保持具の構成図である。

【図11】コード線保持具の構成図である。

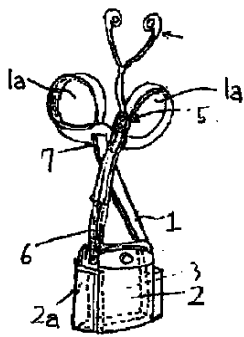
【符号の説明】

図中、1は締結ベルト、2は収容バック、3は携帯音響電子機器、4はイヤホン、5は操作部、6は信号コード線、7は被覆カバー部を示す。

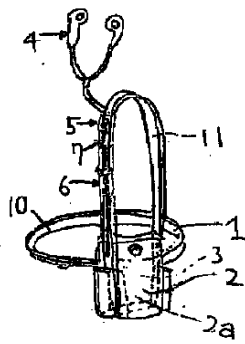
【図7】



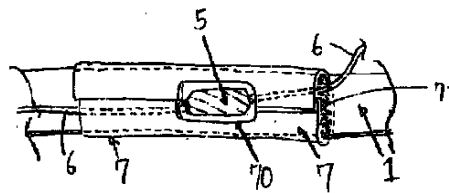
【図1】



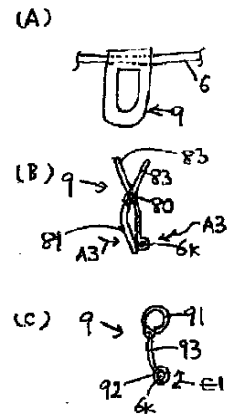
【図2】



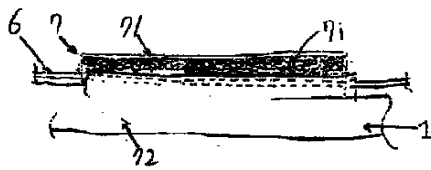
【図3】



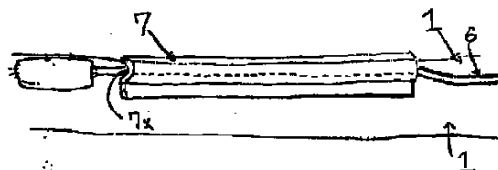
【図11】



【図4】

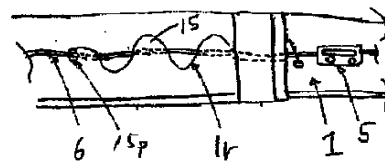
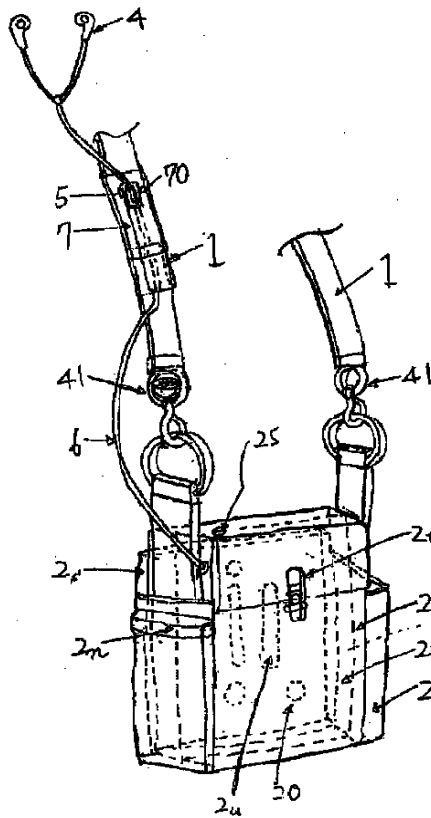


【図5】

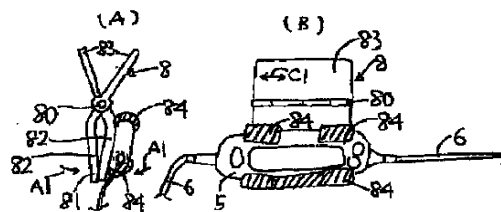


【図6】

【図8】



【図9】



【図10】

